

## 平成 30 年度第 3 回神奈川県立横浜栄高等学校学校運営協議会（記録）

- 1 日 時：平成 31 年 3 月 22 日（金） 15 時 30 分～16 時 50 分 場所：応接室
- 2 出席者 （敬称略・順不同）
- 委 員：棚橋信明（委員長）・鈴木武士（副委員長）・松永賢次（委員）  
田村孝章（委員）・内田久恵（委員）  
菊池かをる（委員）、大澤一郎（委員）・高橋浩二（委員）・竹谷康生（委員）は欠席
- 事務局：西ヶ谷克彦（副校長）・後藤昌英（教頭）・小泉邦広（総括教諭）  
黒沢なぎさ（総括教諭）・赤坂昌幸（総括教諭）・齋藤基博（総括教諭）  
高木利也（総括教諭）

### 3 協議会

#### (1) 校長あいさつ

#### (2) 平成 30 年度の学校運営についての協議

##### ア 平成 30 年度の教育活動報告

- ・専門学校の協力を得て夏季集中講座を開講し、単位認定するシステムを構築した。
- ・生徒の授業評価集計結果では「生徒主体の授業」の評価が向上した。授業改善の取組を継続する。
- ・外部から講師を招き進路に係る説明会等を実施した。キャリア意識、学習意欲の向上につなげたい。今年度の進路実績をもとに進路指導を振り返り改善につなげる。
- ・学校は楽しいと感じている生徒が多いが、生活や将来に不安を抱く生徒の割合も高い。面談等により丁寧に支援していく必要がある。教員の努力で支援を進めているのが現状だ。養護教諭の複数配置など人事措置がほしい。
- ・地域と連携し教育活動を進めており成果を上げている。実効性を高めるため次年度は実施方法を変更する。
- ・情報及び情報機器を適切に活用、管理した。調整を図りながら次年度の行事予定を作成した。創立 10 周年事業に向けた準備を進めている。

##### イ 平成 30 年度の学校評価

○平成 28 年度から平成 31 年度までの中期目標に沿って、年度ごとの目標を定めている。第 1 回協議会で承認いただいた今年度の学校目標にしたがって教育活動を展開した。表には校内評価と保護者の意見を記してある。本会での協議をふまえて総合評価を行う。

- ・生徒の実態に沿って目標を設定し、それぞれの項目で十分に成果を上げている。
- ・子どものためにさまざまな取組を展開している。学校の努力に感謝する。
- ・大学で力を伸ばす学生は入学当初から目的意識が明確である。自ら道を切り拓こうとする姿勢がある。高校での生徒の将来に対する意識づけや学習への動機づけにより、生徒自身のキャリア意識を高める取組を進めてほしい。
- ・AOや推薦で大学入学する学生は目的意識が高いので入学後も好い結果をあげる。生徒のコミュニケーション力を高める取組が求められる。
- ・多様で変化の激しい社会状況についていけない生徒もいるはずだ。生徒の考えをじっくり丁寧に聞き支援を進める必要がある。
- ・将来を考えるきっかけとなるような具体的な支援をする準備がある。教育活動でのコ

ンソーシアムの活用を検討してほしい。

- ・授業評価は科目ごとに質問を変えてもよいのではないか。教員に改善計画書の提出を求めるなどの工夫も考えられる。
- ・特別講座の受講希望者数を制限しないで済むように、実施の受け入れ先（学校）を増やすなどの検討をしてほしい。

(3) **事務連絡**

平成 31 年度第一回会議を平成 31 年 4 月 26 日に開催する。